

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077700138
法人名	社会福祉法人 希望の丘
事業所名	聖母園グループホーム
所在地	〒830-1223 福岡県三井郡大刀洗町大字今491番地 (電話) 0942-77-0085

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 11月 20日
評価確定日	20年 12月 15日

【情報提供票より】 (平成20年10月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	9 人
常勤	8人
非常勤	1人
常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(200,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年 10月 29日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嶋田病院・神代病院・かわの歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園と住宅街とが混在した広大な一角に介護老人福祉施設、通所型介護サービス等11事業所があり、その中に位置する事業所である。和風の平屋建てで、玄関・居間、台所・リビング、居室が繋がりながらも引き戸でそれぞれが独立した空間になるように工夫され、ゆったりと広い造りになっている。法人がカトリック精神に基づき昭和20年代から地域で福祉活動に従事していることもあり、地域との交流が日常的に自然に行われている。また、計算ドリル、音読ドリル等の学習時間を個別的に取り入れ、創作活動時間や会話の機会を多く取り入れた介護が日々行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の「同業者との交流」については、県グループホーム協議会への参加に留まらず、町内の同一事業所との交流を検討する等改善計画を作成して、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	代表者・職員は自己評価の意義を理解している。自己評価は全職員で取り組み、意見集約をして、管理者が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するように努めている。夜間の防火体制への意見や助言等そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の要望、意見、苦情等は家族の来訪時、家族会で伺っている。玄関には意見箱を設置しており、苦情については第三者窓口の紹介を行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会・町内会に事業所・法人だよりを配布している。町内会の祭り等行事への参加を行っており、また近隣からの野菜や花の差し入れ、月2回の保育園児の茶道教室開催、地域友人の面会等日常的な交流を行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの事業所の理念として、地域密着の視点が含まれた理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼で唱和し、日々のケアの中やミーティング時に職員間で具体的なケアについて意見の統一を図り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しており、近隣からの野菜や花の差し入れ、近隣友人や保育園児等の訪問が日常的に行われている。また町内の文化祭に作品を出品したり、小学校に手作りの交通安全の看板を寄贈する等の交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を職員全員で取り組み、評価票を作成している。前回評価の課題については、会議で改善シートを作成し、同業者との交流の在り方を検討する等して管理者及び職員全員で改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するように努めている。夜間の防火体制への意見や助言等そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターを含め、行政との連携は密に図られている。福祉協力員会議の場で講和をしている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修を受講した職員が、その資料を基に内部研修を行い、全職員に周知を図っている。家族にも説明を行い、必要な利用者への活用の支援も行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には暮らしぶりや健康状態等を報告し、その内毎月一回は個人情報を書いた事業所だより、法人だより、金銭管理表を手渡ししている。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時には必ず声かけを行い、意見・要望をいただく機会を設けている。第三者相談窓口については玄関に連絡先を掲示し、説明を行っている。玄関にアンケート用紙と意見箱が設置されている。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、年2回職員全員との面談を行い、意見・要望・不満等を聞く機会を設けている。やむを得ない職員の離職に際しては、引き継ぎ期間を設ける、家族面会の際には、離職の挨拶をする等利用者や家族のダメージを防ぐ努力をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>運営者・管理者は人権教育の重要性を認識し、全職員に対して利用者に対する人権の尊重を重んじ、事業所や法人内会議、その時々話している。年1回の人権教育を内部研修で実施している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>交替で外部研修に参加する機会を全職員に設けており、研修内容については事業所会議で報告する仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協会に加入している。また、県外研修の機会も設けており、職員はブロック別研修会等に参加によって、他事業所との交流を図っている。町内のグループホーム間の交流を検討・計画している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や数時間の体験利用、自宅訪問等を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の味付け・配膳・後片付け、洗濯物干し・たたみ、縫物、畑作り等利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者がともに過ごし、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。また、言葉が不自由であったり、意思表示が難しい利用者は、その方の様子から想いを察し、利用者本位の支援に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は担当の職員を中心に他の職員や本人、家族の意見・要望等を聞きながら作成している。家族へも説明を行い、同意の押印、署名を貰っている。今後、ケア会議(6か月毎)には、利用者に必ず参加していただく予定である。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当の職員を中心に他の職員や家族の意見・要望を聞きながら1ヶ月毎に計画の振り返りを行っており、個別的な介護計画を作成している。また状況の変化が生じた場合もその都度新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、利用者を見舞いながら本人・家族・医療機関と連携を図り、早期退院に向けて取り組んでいる。本人や家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行っている。本人・家族の要望に応じて医療処置を受けながらの生活の継続も支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、今までのかかりつけ医や事業所の協力医の受診・訪問診療を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の意向を大切にしながら、家族・かかりつけ医、職員と話し合いを行い、方針を全員で共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、その日そのときの気持ちを尊重した支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理や準備、後片付けを行っている。1ヶ月分のメニュー表を参考に、利用者の好みや材料を取り入れ食事を提供している。介助者2名が利用者と一緒に食事を摂っており、会話を楽しみながら食事ができる雰囲気作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望・状態により柔軟に対応できるように毎日入浴の支援をしている。入浴拒否に対しては臨機応変に声かけを工夫をする等して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、調理・書道・野菜作り・裁縫、買物、楽しみごとを含めて一人ひとり支援している。午前中は計算・音読ドリル、数字並べ等の学習時間を個別に行っており、その他の利用者も歌を歌う、刺し子をする等の支援を行っている。日中はテレビを消して、職員・利用者が会話するようにしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望または天候等に配慮して、概ね週2～3回の散歩、週4回の買物、季節ごとのドライブ等、車椅子利用の利用者も戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、守りや付き添いを行っている。また近隣や法人内事業所には声かけを行い、支援を依頼している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回事業所内での避難訓練を実施し、法人内訓練へも参加している。また、非常用食料や飲料水を準備している。運営推進会議時に委員より提案を貰い、多くの近隣住民に訓練に参加して貰うための参加協力依頼の訪問を行う予定である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録は全利用者分ある。献立は法人内の栄養士が栄養バランスやカロリー等を考慮しながら月に1回作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者作成のちぎり絵や季節の花を飾る等して、家庭的な雰囲気に配慮されている。利用者にとって不快にならないよう、職員の声や音楽等は配慮されている。リビングに続き、屋外には、広いウッドデッキが設けられており、季節に応じた過ごし方ができるようになっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの小物や家具を持ち込み、家族の写真等を飾っている。その人らしさを尊重し、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※ は、重点項目。